

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立粉浜小学校

令和7年度

1 学校運営の中期目標(4～7年度)

**現状と課題**

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

**【安全・安心な教育の推進】**

○全市共通目標の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童がR4:83.2%, R5:75.1%, R6:80.3%という結果であった。最終目標値を達成できるよう、取り組みを進める。

○小学校学力経年調査「学校のきまりを守っていますか」に肯定的回答はR6:90.6%と目標値の85%を大きく上回る結果となった。

○不登校児童の在籍比率がR4:4.5%, R5:5.2%, R6:5.17%という結果であった。

不登校児童・保護者および関係諸機関との連携が引き続き重要であると考えます。

**【未来を切り開く学力・体力の向上】**

○小学校学力経年調査の対全国比を同一母集団において経年的に比較した際、6年生以外は、国語科・算数科とも前年度を上回ることができなかった。

○小学校学力経年調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的に「好き」と肯定的に回答する児童はR5:77.8%, R6:72.7%であった。

**【学びを支える教育環境の充実】**

○授業日において、8割以上の児童が学習者用端末を活用する日数は、R6:50%以上を達成することができている。また、授業の中で週3回以上の活用も達成することができている。引き続き「こころの天気」入力、SKY MENUなどの活用を推進していく。

○「学校園における働き方改革推進プラン」基準1を満たす教職員の割合は、R5:68%, R6:72%と改善傾向にある。

少なくとも週1回の「ゆとりの日」の実質化をめざし、会議の精選、印刷などの業務負担の軽減等を通して、業務内容の見直しを継続する。

(R7 までに達成する目標)

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。【R7:87.8%】

○小学校経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.7%以上にする。(当初目標値85%達成のため再設定済み)【R7:95%】

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R7:1.7%】

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。【4年+0.07P、5年+0.12P、6年+0.03P】

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。【4年+0.15P、5年+0.13P、6年+0.02P】

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72.7%以上にする。(当初目標値67%達成のため再設定済み)【3年72.3%、4年73.3%、5年85.1%、6年60% 全校平均72.7%】

**【学びを支える教育環境の充実】**

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用を適さない日数を除く〕(当初目標値50%達成のため再設定済み)【R7:94.6%】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を86%以上にする。(当初目標値70%達成のため再設定済み)【R6:84.62%、R7:80.77%】

基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。【R7:87.8%】

○小学校経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.7%以上にする。(当初目標値85%達成のため再設定済み)【R7:95%】

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R7:1.7%】

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

【4年+0.07P、5年+0.12P、6年+0.03P】

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

【4年+0.15P、5年+0.13P、6年+0.02P】

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72.7%以上にする。(当初目標値67%達成のため再設定済み)

【3年72.3%、4年73.3%、5年85.1%、6年60% 全校平均72.7%】

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用を適さない日数を除く〕(当初目標値50%達成のため再設定済み)【R7:94.6%】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を86%以上にする。(当初目標値70%達成のため再設定済み)

【R6:84.62%、R7:80.77%】

基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

### 3 本年度および中期目標の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校のきまりを守っていますか」に肯定的に回答する児童数は、目標値に達しており、合わせて、不登校率も減少傾向にある。これは、日々の生活指導等による継続した取組、「いじめ・いのちについて考える日」を年間3回設定し、児童朝会での校長講話・学級担任による指導・いじめアンケートの実施とその解決等の取組の成果と言える。児童が自己を振り返る機会を定期的そして継続的にもち、常に児童に関する情報を共有しながら児童理解を深めることの大切さを意識した教職員の姿勢が、少しずつ成果に結びついていると考える。

引き続き、児童自身が自分の行為を客観的に振り返る機会を定期的にもち、みんなが安心して登校できる学校を維持できるよう指導を続ける。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

2年間の研究教科を「生活科」「総合的な学習」とし、教員の指導力の向上を進めるとともに、探求的な学びの在り方の研究を進めてきた。特に体験的な学びを重視し、外部講師の招聘を積極的に取り入れてきた。また、ICT 機器を活用し、話し合い活動を推進し、ペアやグループでの話し合い活動も全学年で推進してきた。その結果「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と意識している児童も増え、経年調査の国語・算数の結果も伸びがみられた。

体力面では、運動会・かけあし大会・なわとび週間の開催など学校行事として設定している行事に向けて、がんばって取り組む習慣はついている。また、がんばりカードの継続的な活用等の取組の成果として、自分なりのめあてをもって、自分の目標達成を意識してがんばる姿が多くみられた。しかし、「運動することが好き」という意識をより向上させるためには、授業の組み立ての中で、スモールステップを意識した指導の在り方を意識する必要があると考える。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

これまで、一人一台学習者用端末 PC を家に持ち帰るという習慣がなかった本校であるが、今年度11月から全員持ち帰りを実施している。これまでより、保護者がPCを見る機会も増え、関心を持つ保護者は増えたのではないかと考える。日々の連絡帳・心の天気の入力・授業中での活用等、幅広く活用することができている。

働き方改革の観点から、時間外勤務の目標値は達成することができなかった。R4年度に設定した中期目標70%はR6年度達成したため、目標値を引き上げたという経緯がある。

今年度、達成できなかった要因として、①教職員に欠員が出たため業務分担を年度途中に行った②転入生受け入れ等にかかるイレギュラーな会議の開催があった③保護者対応等が勤務時間外にまでおよんだ④校務分掌の見直しの必要性などが考えられる。

ただ、時間外勤務であるからと言って対応を怠ったり、後日に引き延ばしたりしなかったことで、得られた地域・保護者からの信頼も大きく、児童の安全・安心につながっていることがたくさんある。それを鑑みると、時間外勤務の目標値は達成できなかったが、本校教職員の良い面でもあると考える。本来は、勤務時間内に業務が完了することが大切なため、必要な場面では仕事を割り振り、教職員全体で勤務時間の縮小を考える。

また、個々が計画的な業務処理を心がけ、業務軽減につながる対策を進めるとともに、合わせて、教職員の働きがいにつながる取組内容の充実を、より一層進めることが大切であると考え。

## 大阪市立粉浜小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。(R4:83.2%, R5:75.1%, R6:80.3%, <b>R7:87.8%</b>)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.7%以上にする。(R7:<b>95%</b>)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R4:4.5%, R5:5.2%, R6:5.17%, <b>R7:2.0%</b>)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育の実現】</p> <p>・児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と思う意識を高める。 (いじめへの対応)</p> <p>指標</p> <p>・いじめについて考える日を年3回設定し、児童がいじめについて考える機会を設ける。</p>	B
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育の実現】</p> <p>・児童が学校のきまりや規則を守ろうとする意識を高める。 (安全教育の推進)</p> <p>指標</p> <p>・「学校のきまりを守ろう週間」を年2回設定し、「チェックカード」において守れなかった日数が1日以下の児童の割合が全児童の93%以上になるようにする。 <b>R7:1回目 92.7% 2回目 97%</b></p>	A
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育の実現】</p> <p>・担任を中心に定期的に話し合いの場を設け、不登校の未然防止の視点で児童理解に努める。</p> <p>・児童の実態を把握し、思いやりの心や自己肯定感が育つ取り組みを進める。 (不登校への対応)</p> <p>指標</p> <p>・児童アンケートの「自分によいところがある」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。<b>R6:88% R7(中間)94% (後期)91%</b></p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

**【年度目標の達成状況】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を87%以上になった。(R4:83.2%, R5:75.1%, R6:80.3%, **R7:87.8%**)  
<3～6年生>
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.7%以上になった。(R7:**95%**)  
<3～6年生>
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少した。  
(R4:4.5%, R5:5.2%, R6:5.17%, **R7:2.0%**)

**【取組の進捗状況の結果】**

- いじめについて考える日を年3回設定し、児童がいじめについて考える機会を設けた。
- 「学校のきまりを守ろう週間」を年2回設定し、「チェックカード」において守れなかった日数が1日以下の児童の割合が全児童の93%以上になった。
- 児童アンケートの「自分によいところがある」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を89%以上になった。

**【分析】**

(取り組み内容①に関して)

「いじめについて考える日」を年3回設定したり、道徳教材を活用したりすることで、命は大切なものであり、いじめはどんな理由があってもいけないという意識を高めることができた。

(取り組み内容②に関して)

「きまりを守ろう週間」に限らず、常日頃から各学級での指導や、朝礼などで声掛けを行うことで、児童がお互いに声をかけ合う場面が生まれ、きまりを守ろうとする意識が高まっていた。

(取り組み内容③に関して)

一人ひとりが、各学級において居場所があることを前提として学級指導を行ってきた。また、普段から教職員間で児童について話す機会があることで、担任だけでなく様々な教職員が積極的に関わろうとする姿勢が続けられており、児童理解にも役に立った。自己肯定感を高めるために、各学級で児童の良いところを伝え合う活動が行われていた。

次年度への改善点

- ・いじめがだめだという意識は高まっているが、いじめ事案がなくなった訳ではないため、引き続き取り組みを行い、意識だけでなくいじめをやめる・止める行動に起こせる指導をしていく必要がある。
- ・「きまりを守ろう週間」以外の場面で、廊下・階段を走るなどの場面が見受けられる。各学年の発達段階に応じた、普段から意識を高められるような指導をしていく必要がある。
- ・児童アンケート「自分に良いところがある」について「当てはまらない」と回答する児童が各学年数名いた。自分自身の良さについて、自分ではわからないことがあるかもしれないので、学級活動を通して、誰かの役に立つ仕事を積極的に行わせ、他者からの感謝や労いの言葉をかけてもらうような経験が必要である。

## 大阪市立粉浜小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 4年+0.07P 5年+0.12P 6年+0.03P</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 4年+0.15P 5年+0.13P 6年+0.02P</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72.8%以上にする。3年72.3% 4年73.3% 5年85.1% 6年60% 平均72.7%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科や算数科・体験学習の授業を中心に、児童が自分の考えをもち、話し合いに参加し、考えを深められるような学習を進めていく。</li> <li>・「思考力・判断力・表現力」を育成するための教材や学習プリントを活用し、家庭学習の充実を図る。</li> <li>・言語環境を整えるために、学校図書館の整備、読書活動の充実を図る。 (言語活動・理数教育の充実)</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えをふかめたり、広げたりすることができた」に肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。R7:(中間)93%,(後期)91%</li> <li>・1週間に3回ずつ以上、児童が「読み」「書き」「計算」に関する家庭学習をする機会を設ける。</li> <li>・年間30冊以上読書する児童の割合を68%以上にする。R7:(中間)91%,(後期)85%</li> </ul>	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の学習で自分が運動する楽しさや仲間と協力して運動する楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・なわとびがんばり週間や耐寒かけ足大会に向けたかけ足期間を設け、進んで体を動かす楽しさを味わわせる。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおける「運動することが好き」の項目について最も「当てはまる」と答える児童の割合を73%以上にする。R7(中間)72%,(後期)71%</li> <li>・「なわとびがんばりカード」を活用し、自分が決めたためあてを達成した児童の割合を、学校全体で85%以上にする。R6:94.6%,R7:91.7%</li> <li>・「かけ足がんばりカード」を活用し、自分がきめたためあてを達成した児童の割合を全学年で91%以上にする。R6:90.6%,R7:92.5%</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

**【年度目標の達成状況】**

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上した。

<4～6年生>

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上した。

<4～6年生>

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72.8%以上になった。

<3～6年生>

**【取組の進捗状況の結果】**

○児童アンケート「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えをふかめたり、広げたりすることができた」に肯定的に回答する児童の割合を91%以上になった **R6:89% R7(中間)93%(後期)91%**

○1週間に3回ずつ以上、児童が「読み」「書き」「計算」に関する家庭学習をする機会を設けた。

○年間30冊以上読書する児童の割合を68%以上になった。 **R6:66%, R7:85%**

○児童アンケートにおける「運動することが好き」の項目について最も「当てはまる」と答える児童の割合を73%以上にならなかった。 **R7(中間)72%(後期)71%**

**【分析】**

**(取り組み内容①に関して)**

どの学年でも話し合い活動を積極的に取り入れることで、自分の考えを広げることができた児童が多かった。また、一人一台端末の発表ノートや気づきメモなどを活用することで、児童が調べたことや考えたことを発表しやすくなった。しかし、考えを「深める」ところまでは至っていないと考えられる。

家庭学習に関しても各学年計画通り行うことができ、基礎的な学力を身につけることができた。また、読書に関しても、図書室開放やお話会などを通して、児童が本を手に取りやすい環境をつくることができた。

**(取り組み内容②に関して)**

なわとび週間・かけ足週間ともに、児童が意欲的に取り組むことができた。初めに自分の目標を立てておくことや、がんばりカードを活用することで、体力向上に向けて児童が努力する姿が多く見られた。

次年度への改善点

児童が「話し合いをしてよかった」、「考えが深まった」と自分で思えるような取り組みを行っていく必要がある。そのために、児童が考えたいと思うような発問をつくることのできるよう教材研究を行っていく。また、ICT機器に関しても、これまで以上に積極的に活用していき、児童が考えを伝える手立てとなるようにしていく。家庭学習や読書に関しては、継続していく。

なわとび週間やかけ足週間は継続して行う。体育の授業などで、運動が苦手な児童も「できた」と思えるよう、スモールステップを意識した授業を行っていくようにしていく。

## 大阪市立粉浜小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)(R7:94.6%(1月現在))</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を86%以上にする。(R7:80.77%)</p>	A
<p>基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下</p> <p>基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>・スクールライフノート、ナビマ、スカイメニュークラウド、インターネット検索を使う。</p> <p style="text-align: right;">( ICTを活用した教育の推進 )</p>	A
<p>指標</p> <p>・週に4回以上は一人一台端末を使用する。</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・時間外勤務を減らすため、会議等を精査する。</p> <p style="text-align: right;">( 働き方改革の推進 )</p>	B
<p>指標</p> <p>・平均して月に5回ゆとりの日を設ける。R7:4.6日</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上になった。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を86%以上にならなかった。(R7:80.77%)</p> <p><b>【取組の進捗状況の結果】</b></p> <p>○週に4回以上は一人一台端末を使用した。</p> <p>○平均して月に5回ゆとりの日を設けられなかった。R7:4.6日</p>	

**【分析】**

**(取り組み内容①に関して)**

心の天気の確認、スカイメニュークラウドの利用、オンラインのワード、連絡帳や音読の提出、カメラ機能などを1人1台端末で使うことで、児童の8割以上が利用した日が、80%となっており、達成することができた。また、児童は他の児童の考えを参考にしながら、自分の考えを深めることができた。

**(取り組み内容②に関して)**

事前に学年や担当などの少人数で打ち合わせすることで、全体の会議の時間を減らせた。しかし、今年度は変更点などが多くあり、急な会議などが必要になり、ゆとりの日は月平均4.6日にとどまった。これ以上会議等を精査することは、現状では厳しい。

次年度への改善点

今年度、1人1台端末で活用した効果的なものは来年度以降も引き続き取り入れて活用していく。

教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員が目標を達成できなかったのは、①教職員に欠員が出たため業務分担を年度途中に行った②転入生受け入れ等にかかるイレギュラーな会議の開催があった③保護者対応等が勤務時間外までにおよんだ④校務分掌の見直しの必要性等が、要因であると考えられる。そのため、業務が一部の教職員に偏ってしまう結果となったと考えられる。

ただ、時間外勤務であるからといって対応を怠ったり、後日に引き延ばしたりしなかったことで、得られた地域・保護者からの信頼も大きく、児童の安全・安心につながっていることがたくさんある。それを鑑みると、時間外勤務の目標値は達成できなかったが、本校教職員の良い点でもあると考える。

本来は、勤務時間内に業務が完了することが大切であるため、次年度以降は、必要な場面では仕事を割り振り、教職員全体で勤務時間の縮小を考えていく必要がある。個々人でも、計画的に仕事を行い、定時より大幅に時間を超えないように日々業務に取り組む必要がある。